

## 高知県立坂本龍馬記念館 平成 31 年度企画展及び事業概要 (予定)

	事業名	会 期	内 容
企 画 展	「志士の肖像－公文菊僊と龍馬を描いた絵師たち」展	4月27日(土)～7月15日(月・祝)	高知出身の絵師・公文菊僊(1873～1945)は、維新の志士、とりわけ坂本龍馬の肖像画制作に情熱を傾け、現在でも龍馬の肖像画は非常に多く残されている。肖像画には、著名人の賛や歌が入ったものや、立位でも足元が靴のものと足袋のものがあるなど、比較するとさまざまなバリエーションが見られる。明治40年(1907)に発足した土陽美術会にも籍を置いて活動しつつ、生涯肖像画制作に没頭した公文菊僊の足取りをたどりながら、肖像画から見た近代における志士顕彰の歴史を探る。
	「龍馬をめぐる女たち」展(仮称)	7月23日(火)～9月25日(水)	龍馬は自分のことを「僕は男振りは悪いが矢ツ張り(女が)惚れる」と言ったという。実母・幸や継母・伊與。3人の姉たち。恋人といわれる加尾、佐那や妻お龍。龍馬の周りにはいつも女たちがいる。女たちを通じて龍馬の魅力を探る。
	「維新十傑」展(仮称)	10月5日(土)～12月15日(日)	維新の十傑については、様々な人が言及しており、維新三傑ほど定説化しているものではない。伊藤痴遊の『実録維新十傑』は龍馬を含めた10人を選出しており、それに基づき関連資料を展示する。採り上げる人物は次の10人。西郷隆盛、大久保利通、木戸孝允、岩倉具視、三条実美、勝海舟、吉田松陰、高杉晋作、中岡慎太郎、坂本龍馬。
	「長宗我部遺臣と土佐の郷土」展	12月21日(土)～4月下旬	幕末の土佐藩では、龍馬をはじめ郷土という身分から出た者が多く活躍した。郷土は全国各地にみられる身分だが、なかでも戦国大名長宗我部氏の遺臣(一領具足)が、新たに入部した山内氏によって郷土として取り立てられた土佐の例は著名である。長宗我部時代を起点として、江戸時代初期の制度化を経て、社会のなかでどのような変遷をたどり定着していったのか、土佐藩の郷土という身分を詳しく紐解く。そして、幕末を迎え、郷土が続々と政治活動に身を投じていったさまを紹介する。
普 及 事 業	連続講演会 テーマ〈龍馬をめぐる人々〉(仮称)	6、8、10、11、2月 各月1回	ひとつのテーマに沿った講演会を開催します。今回は、坂本龍馬に関係する人物について、研究者にお話しいただきます。西郷隆盛、木戸孝允、勝海舟ら5人の人物を通して、龍馬の姿を見つめていきたい。
	夏休み・龍馬フォーラム	8月4日(日)13:00～17:00	子どもたちの「調べる」「考える」「表現する」力を育てていくことをめざした、坂本龍馬や幕末維新をテーマにした「学びの場」を開催する。
	夏休み・りょうま工作教室	7月下旬～8月中旬	歴史や龍馬への関心を深める工作教室を開催する。小学校低学年向と高学年向の2コースを開催予定。
そ の 他	龍馬記念館無料開館日	11月15日(金)	龍馬の誕生日、そして当館の開館記念日である11月15日を無料開館日とする。
	龍馬まつり in 記念館	11月17日(日) * 予定	新館ホールなど、多くの方に坂本龍馬記念館を楽しんでいただける、多彩なイベントを開催する。